

作成日 2013年06月03日

改訂日 2015年12月18日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	PHENOSET microspheres
製品コード	
整理番号	20130603-1
製造元 会社名	MALAYAN ADHESIVES & CHEMICALS SDN. BHD.
住所	No.9, Jalan Utas 15/7, 40200 Shah Alam, Selangor Darul Ehsan, MALAYSIA
輸入販売 会社名	巴工業株式会社
住所	〒141-0001 東京都品川区北品川五丁目5番15号 大崎ブライトコア
電話番号	03-3442-5144(化成品部)
緊急時の電話番号	03-3442-5120(代表)
FAX番号	03-3442-5175
担当部署	化成品部 第二課
推奨用途及び使用上の制限	工業薬品

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外
	急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	呼吸器への刺激のおそれ
注意書き	
【安全対策】	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 粉塵の吸入を避けること。
【応急措置】	吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
【保管】	換気の良いところで保管すること。 施錠して保管すること。
【廃棄】	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
国・地域情報	—

3. 組成及び成分情報

化学物質 : 混合物

一般名

フェノール樹脂バルーン

商品名

PHENOSET microspheres

(商品ID)

(BJO-0930, BJO-0840, EPO-0360)

成分

フェノール ホルマリン ポリマー

分子式(分子量)

ポリマー (>10,000)

CAS番号:

フェノール ホルマリン ポリマー : 9003-35-4

官報公示整理番号(化審法・
安衛法)

アルキルフェノール ホルマリン ポリマー: 7-903

分類に寄与する不純物及び
安定化添加物

データなし

濃度又は濃度範囲

フェノール ホルマリン ポリマー: 100 %

ホルムアルデヒドを0.001 % 以下(*)含有します。

ホルムアルデヒドは、発がん性物質としてIARC,NTPやOSHAにリストアップされていますが、十分な換気のもとで取り扱えばリスクを最小限に抑えられます。

注*) この濃度は、GHS有害性分類に対しカットオフ値になります。

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気の場所へ移し、口や鼻を水ですすぎ、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水と石鹸で洗うこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合

水で15分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

口をすすぐこと。無理に吐かそうとはいけない。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

意識を失っている場合は、決して吐かせたり、何かを飲まそうとはいけない。

予想される急性症状及び遅発性症状

粘膜、皮膚に付着を放置すると炎症を起こすおそれがある。

飲み込むと、腹痛を起こすおそれがある。

医師に対する特別な注意事項

特別な解毒剤はない。患者の症状や症候によって処置を指示すること。

5. 火災時の措置

消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状水
特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性及び/又は酸性のガス、一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、フェノール化合物等を発生するおそれがある。
特有の消火方法	粉じんを立てないようにする。
消火を行う者の保護	静電気放電などで粉じん爆発の恐れがある。 消火作業の際は、自給式空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 環境中に放出してはならない。
環境に対する注意事項 回収・中和 封じ込め及び浄化方法・機材	新鮮な空気で換気を行う。 濡らしたウエスで拭き取るか、水で湿り気を与え粉じんの発生を防ぐ。 出来る限り掃き集めて密閉容器へ回収する。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
二次災害の防止策	

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策 局所排気・全体換気	換気設備対策を行い、保護具を着用する。 容器を開く場所、投入する場所等、粉じんが発生する全ての作業所には局所排気を推奨する。
	安全取扱い注意事項	まき散らす様な粉じん発生は禁止する。 床や設備の上にはこりを溜めない。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 粉じんが発生しそうな場所は、静電気放電防止を施すこと。
	その他の注意事項	注意) 自由に製品へ空気が入る状態で35度以上に加熱放置されると積み荷が自発的に発煙する(燻ぶる)おそれがある。 パッケージのまま乾燥しては、いけない。乾燥方法は、下記に示す。 本製品は、温度上昇とともに酸化し易くなる。優れた絶縁性のため、大きな塊りだと酸化熱が内部に溜り、自然発火、発煙(燻ぶり)を起こす温度まで容易に上昇してしまう。この事が起こる温度は、加熱された量と有効な酸素量の幾何学的関数で決まる。 燻ぶる様子は、活性炭が燃えて穏やかに赤くなる様子とよく似ている。
	乾燥方法	本製品の水分を4%以下にするために、金属製トレイに、2インチの厚さに敷いて75℃を越さないように24時間乾燥する。 製品にゴミが入らないように、水分を通す布を被せておくこと。
保管	接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件	データなし 消防法の規定に従う。 データなし 密栓し、換気の良い、冷暗所に保管する。 直射日光下に放置しない。
	容器包装材料	製品残差による汚染の恐れがあるので包装を再使用しないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	0.1ppm (ホルムアルデヒド)	
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)		
日本産衛学会(2014年版)	0.1ppm、0.12 mg/m ³ (ホルムアルデヒド)	
ACGIH(2008年版)	TLV:0.3ppm (ホルムアルデヒド)	
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 この製品は、未反応のホルムアルデヒドを含むので、適切な換気設備、局所排気装置を設置した場所で取り扱うこと。	
保護具	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	換気が不十分な場所では、防塵マスクを着用すること。 保護手袋を着用すること。 保護めがねを着用すること。 必要ならばエプロンタイプの保護衣、作業靴を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。	

9. 物理的及び化学的性質

物理的状	形状	固体 (微粉末)
	色	赤褐色
	臭い	無臭
	pH	データなし
	分子量	10000以上
融点・凝固点		融けない。
沸点、初留点及び沸騰範囲		沸騰しない。
引火点		データなし
自然発火温度		500°C (ASTM D 1929)
燃焼性(固体、ガス)		データなし
爆発範囲		データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
比重(密度)		嵩比重 0.20~0.80 g/cm ³
溶解度		水に不溶
オクタノール・水分配係数		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
粉じん爆発下限濃度		データなし
最小発火エネルギー		データなし
体積抵抗率(導電率)		データなし

10. 安定性及び反応性

安定性		通常の使用、保存条件下では安定
危険有害反応可能性		データなし
避けるべき条件		データなし
混触危険物質		強酸、強塩基、ハロゲン、酸ハロゲン化物
危険有害な分解生成物		火災時、一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、フェノール化合物

11. 有害性情報

急性毒性	経口	データなし
	経皮	データなし
	吸入	吸入(ガス): 分類対象外 吸入(蒸気): 分類対象外 吸入(粉じん): 分類できない 吸入(ミスト): 分類対象外
皮膚腐食性・刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性		ホルムアルデヒドが区分2Aに区分されているが濃度が0.1%未満でカットオフ値以下であるので、分類できないとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性		呼吸器感受性: 分類できない 皮膚感受性: 分類できない
生殖細胞変異原性		ホルムアルデヒドが区分2に区分されているが、濃度がカットオフ値の1%以下、その他の成分のデータ不足のため、分類できない。
発がん性		ホルムアルデヒドが区分1Aに分類されているが、濃度がカットオフ値の0.1%未満であるので分類できない。 データ不足のため、分類できない。
生殖毒性		データ不足のため、分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)		上部呼吸器に刺激性あり、くしゃみ、せき、鼻水を伴うとの記述に基づき区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)		ホルムアルデヒドが区分1に区分されているが濃度がカットオフ値の10%以下、その他の成分のデータ不足のため、分類できない。
吸引性呼吸器有害性		データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性
水生環境慢性有害性
オゾン層への有害性

データなし
データなし
データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 海上規制情報
航空規制情報
UNNo.

該当しない
該当しない
危険物分類に該当しない

国内規制 陸上規制情報
海上規制情報
航空規制情報

該当しない
該当しない
該当しない

特別安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

換気の良い冷暗所に保管すること！

注意) 自由に製品へ空気が入る状態で35度以上に加熱放置されると積み荷が自発的に発煙する(燻ぶる)おそれがある。

パッケージのまま乾燥しては、いけない、発煙(燻ぶる)のおそれがある。

15. 適用法令

消防法

危険物に該当しない

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

該当しない

労働安全衛生法

該当しない

名称を表示すべき有害物

名称等を通知すべき有害物

化審法(第2種監視化学物質)

該当しない

大気汚染防止法(特定物質)

該当しない

16. その他の情報

連絡先

参考文献

巴工業株式会社

NITE GHS分類公表データ

EU CLP Regulation, AnnexVI

MALAYAN ADHESIVES & CHEMICALS SDN. BHD.

MSDSEU-03 (2013.July.11)Rev. 6.0

JIS Z 7253: 2012

RTECS(2008)

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。